

令和7年度 学校評価 評価書(一覧)

評価基準 A—80%以上(良い) B—60~80%未満(まあまあ良い) C—40~60%未満(あまり良くない) D—40%未満(良くない)

園学校名 安田町立安田中学校

項目	中長期経営目標	短期経営目標	短期経営目標の達成状況	自己評価	改善方策	関係者評価講評	関係者評価
確かな学力	教科間連携を核として、基礎学力の定着、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、教科指導力の向上、ICTの効果的な活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種学力調査の結果。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>◇全国学力・学習状況調査(全国平均正答率+3P)</li> <li>◇高知県学力定着状況調査(県平均正答率+4P)</li> <li>◇総合学力調査(全国平均正答率+3P)</li> </ul> </li> <li>○授業研究と授業改善。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「伝え合うための表現力(書く・話す・聞く)を高める。」</li> <li>・「効果的なグループ・ペア学習を行い、生徒同士をつなぎ広げる活動を行うための授業研究と授業改善」</li> </ul> </li> <li>◇学校評価、授業に関する項目「私は授業がよくわかる」、「私は、授業に意欲的に取り組み、自分の『学力』を高めようと頑張っている」、「私は、授業の中で行う生徒間で話し合う活動を通して、新しいことに気付いたり自分の考えを深めたりしている」の肯定評価 90%以上</li> <li>○ICTの効果的な活用。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>◇授業力向上評価シート「ICTの効果的な活用」3.5以上</li> <li>・教職員間での日常的な交流。</li> <li>・東部教志塾・各研修等の学びを実践に生かす。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種学力調査の結果                             <ul style="list-style-type: none"> <li>◇全国学力・学習状況調査⇒+13.7P ※3年・2教科平均</li> <li>◇高知県学力定着状況調査⇒+2.4P ※1・2年5教科平均</li> <li>◇総合学力調査⇒+1.1P ※全学年・5教科平均</li> </ul> </li> <li>○授業研究と授業改善。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「伝え合うための表現力(書く・話す・聞く)を高める。」ための取り組みを各教科や学級で継続して行っており、どの生徒も自分の意見を言うことはできている。ただし、既知の言葉のみで言おうとしたり、不十分な点を教師が補足してしまうことで、適切な教科用語を用いて論理的に述べることには課題がある。</li> <li>・日記や行事等の振り返りは全行記述させている。</li> </ul> </li> <li>◇学校評価、授業に関する項目については、それぞれ 88%、94%、94%であった。</li> <li>○ICTの効果的な活用。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>◇授業力向上評価シートでの「ICTの効果的な活用」は3.8であった。</li> <li>・各授業で適宜 ICTを活用しており、教職員間の交流もできた。</li> <li>・東部教師塾を活用した自主研修を実施し、各教科で効果のあったICTの活用方法について共有することができた。</li> </ul> </li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査実施後の結果分析と全体共有を引き続いて実施していく。</li> <li>・生徒が自分の考えを言葉にし、仲間の意見を受け止めながら学びを深める場面を意識的に設定していく。</li> <li>引き続き・授業参観や教科間連携によって、日常的にアイデアの共有ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの時代を見据えてデジタル技術の歴史・基礎、そして今後の展望(AIの異常な進化)の知見がある講師を招聘して生徒たちに授業ができないかと思う。</li> <li>・各種学力調査の分析をもとに授業改善に継続して取り組んでいる点を評価する。今後は学習の成果や成長の様子を保護者にも分かりやすく発信することで家庭学習との連携が進むのではないかと。</li> <li>・小学校からの基礎学力が定着していないと中学校に上がると勉強が難しくなるため、学力調査結果の平均正答率はなかなか上がらないと思う。</li> <li>・間違えても良いので「自分の意見・考え」を発言したり、意思表示ができて、相手の意見を否定せず、受け入れて学べる機会が多くなると思う。</li> </ul>	B
	朝の読書・帰り学習の充実及び家庭学習の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の読書・帰り学習の充実</li> <li>・朝読書の継続と読書活動の充実。</li> <li>・月1冊以上を目標にした読書記録の取組(国語科)。</li> <li>・帰り学習(小社会要約、これ単、各教科基礎復習等)</li> <li>・委員会活動との連動</li> <li>○家庭学習の定着</li> <li>◇家庭学習(1年70分、2年80分、3年90分)の達成。</li> <li>・「授業で習ったことが定着するように授業内容と連動した家庭学習課題を5教科中心に定期的に出す。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の読書・帰り学習の充実</li> <li>・「読書記録」の継続で月に1冊は本を読む習慣がついてきている。</li> <li>・学校行事の関係上、帰り学習を継続して行うことができず、基礎学力の定着が十分図れないこともあったが、その分を5教科の授業と連動した課題により基礎学力の定着を図った。</li> <li>○家庭学習の定着</li> <li>学習時間調べ(1週間の平均時間)では1年(1学期89分、2学期73分、3学期68分)、2年(1学期81分、2学期81分、3学期81分)、3年(1学期93分、2学期95分、3学期116分)であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた環境で朝の読書を実践する。</li> <li>・帰り学習が学力定着につながるよう各学級で継続して取り組む。</li> <li>・授業と連動した宿題を続ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の読書 10分間を続けているため、本を読む習慣がついてきているので続けてもらいたい。</li> <li>・引き続き読書が習慣化し、本を読む楽しさを感じられるように取り組んで欲しい。</li> <li>・読書記録を付ける取り組みは継続して行って欲しい。</li> </ul>	A
	UDに基づいた授業実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師を招聘(高知大是永かな子教授)し、特別支援教育の視点に立った授業実践。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育についての研修を定期的に行い、そこで得た視点を意識して授業改善につなげることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度の実施も決まっているので、継続した支援と授業改善をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の継続は良いと思う。</li> <li>・継続してより良いUDに基づいた授業を実践して欲しい。</li> </ul>	A
健やかな体	健康・保健教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇平日のメディアの使用2時間以内 80%以上、朝食摂取率 90%以上、睡眠時間 7時間以上が 90%以上。</li> <li>・生活調査(年3回)を実施し、自己管理や家庭との連携を行い、基本的な生活習慣を確立させる。</li> <li>・全体指導と併せて個別指導が必要な児童生徒に対して計画的な指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇平日メディア2時間以内 75.8%</li> <li>朝食 1品以上 94.3%(3品以上 33.3%)</li> <li>睡眠 7時間以上 95.1%</li> <li>・メディアは、平日の使用時間については前年度に比べ改善しているものの、長時間利用の生徒が一部固定化している。また、休日においては平日より使用時間が多くなる傾向が見られる。睡眠は、多くの生徒が7時間以上確保できているが、就寝時間が遅いことから7時間未満の生徒もいる。朝食は、食事内容を把握できていないが、1品以上食べている生徒の割合は目標値を達成した。しかし、3品以上食べている生徒は半数以下だった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣に課題のある生徒は固定化しているため、個人への保健指導などのアプローチや、保健だよりなどを活用して家庭への啓発をより強化し、家庭を巻き込んだ取り組みを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズム改善に向けた継続的な指導が行われていると思う。メディア利用や睡眠習慣についても保護者と連携して取り組んで欲しい。</li> <li>・三者面談等でも担任からメディア等の話をし、保護者を巻き込んで欲しい。新聞等でも載っていたが携帯電話の使用時間が長くなると脳に障害が現れるとのことである。</li> <li>・当たり前のことだと思うが、家庭の協力は必要だと思う。学校だけに任せるのではなく生活習慣は家庭が子どもに付けることである。家庭を巻き込んだ取り組みは続けて欲しい。</li> </ul>	A

	体力・運動能力の向上	◇体力の総合評価 C 以上 70%以上。 ・朝の会でのグーパー運動、ジャックナイフストレッチを行い握力、柔軟性を養う。 ・全校ランニング等の継続的な取組を行い体力向上に努める。 ・体育授業での準備運動としてリズムジャンプを行う。 ◇「運動することは好きですか」、「体育の授業は楽しい」の肯定評価 90%以上。 ・体育授業の改善・工夫及び委員会活動等の充実により運動が好きな生徒を増やす。	◇体力の総合評価 C 以上 66% ◇「運動が好き」90.1%、「体育の授業は楽しい」93.4% ・体育授業、朝の運動、全校ランニング、部活動で取り組むことにより体力も向上した。運動嫌いな生徒も体育授業や部活動を見学することなく取り組んでおり体力向上につながっている。体力の総合評価 DE の生徒の引き上げが課題である。 ・体育授業で本年度から準備運動としてリズムジャンプを取り入れたことで、よい雰囲気での授業がスタートしている。	A	・運動嫌いであっても、体育授業は楽しいと感じている生徒の割合は高いので、体育の授業の取組を通して仲間と協力して運動することが楽しいと感じる生徒を育成しながら体力の向上を目指していく。	・運動が得意でなくても体を動かすことが楽しいと思ってもらえるよう引き続き取り組んで欲しい。 ・全校ランニングの取り組みはとても雰囲気良く実施されており、小規模校ならではの良さがある。リズムジャンプも中学生の好きな TikTok 等の流行を取り入れており良いと思う。 ・体育の授業は競技力の向上より「楽しさ」や「運動によるストレスの発散」程度で良いと思うので、生徒が楽しんでいるのは良いと思う。	A
	適切な部活動運営・指導	・ガイドラインに沿った活動を行い、適切な活動時間と休養を実施する。	・部活動平日 1 日、休日 1 日の休養日実施 100% 部活動に意欲的に参加する生徒の様子がみられる。	A	・引き続き計画的な部活運営を行う。	・100%を続けて欲しい。 ・楽しみながら部活動を行って欲しい。	A
豊かな心	道徳教育の推進	◇道徳意識調査「自尊感情」、「夢・志」肯定評価 80%以上。 ・学年団全教員によるローテーション授業を行う。 ・自尊感情を高めるために日常的な声かけや行事等の振り返りを重視した取り組みを行う。(日記、ありがとメッセージ等) ◇道徳意識調査「家庭との連携」肯定評価 60%以上 ・安田町の取り組みである「ほめほめ習慣」や「高知の道徳」等を活用しながら、家庭との連携を図る。	◇道徳教育の推進 ・「自尊感情」肯定評価 88%、「夢・志」肯定評価 77% ・「自尊感情」の、評価指標は上回っている。全教員で日常的な取り組みを大事にしながら生徒の良いところは認める接し方を行ってきたためである。 ◇「家庭との連携」肯定評価 66% ・評価指標を上回っている。「高知の道徳」を使い、郷土の偉人について家族と話し合う場面を設けた。家庭からの返信(感想)を道徳通信に掲載し、他者の思いを知る機会をつくることができた。	A	・「夢・志」は評価指標に若干到達できていないが、道徳の授業を各学年の実態に合わせて総合的な学習や進路学習等と関わらせ、将来を見据えた取り組みをすることができたので、今後も継続していく。  ・「高知の道徳」の活用を工夫していく。	・子どもの自己肯定感を育てる取り組みが行われ、成果を感じる。今後も家庭と連携しながら思いやりを育む教育の継続を期待する。 ・自分のことを好きになり、かけがえのない存在であることを感じ、自分を大切にす気持ちは持ってもらえたらと思う。 ・中学生の家庭との(道徳での)連携は難しい部分もあるが、引き続き機会を設けて継続を。	A
	生徒指導の充実	◇学校生活アンケートの「学校が楽しい」肯定的評価 85%以上、 ・生徒が主体となる授業(「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安心安全な風土の醸成」)づくり・行事・生徒会活動を行う。 ◇QU 満足群 60%以上 ・学校生活アンケート及び QU の実施後、結果を分析して、取り組みを考える。	◇学校生活アンケート「学校が楽しい」肯定評価97.1% ・学校がより安全で楽しい場所になるためにはどうしたらいいと思いますかという問いに対して、前年度よりも「レク」という言葉がなくなった。生徒会が主体的に動いてレクなどを企画しているからだと思われる。開発的な生徒指導が一定できていると考えられる。 ◇QU 満足群 69.7% ・指標は上回っており、丁寧な読み取りにより、困っている生徒に早めに対応できた。	A	・引き続き安心安全な学級づくりを進めていくとともに、日常的に生徒との関りを大切に、発達支持的生徒指導を行っていく。	・アンケート等を活用した早期対応が行われており安心した学校生活を送れる環境づくりが進んでいると感じる。 ・学校に行くのが楽しい、安心できる場所になるよう引き続き取り組んで欲しい。	A
基盤となる体制等	地域との連携・協働	○主な行事、参観日への保護者の参加率 80%以上。 ○地域の協力を得た学習活動の実施。 ○町・地域行事等への協力。	○体育大会、リサイクル資源回収、学習発表会、道徳参観日等主な行事に多くの保護者・ご家族に参加いただけた。 ○各学年の総合的な学習の時間の取り組みの中で、多くの方々にご協力をいただきながら進めることができた。 ○安田の夢まつり、町政 100 周年行事、町駅伝大会等地域行事への参加や避難タワーの清掃活動等を実施できた。	A	・これらの活動をとおして家庭・地域の協力を得、温かく見守っていただいているのでこの関係性を継続していく。	・地域としても協力していきたい。継続して欲しい。 ・急激な少子化のなかで、将来安田町に帰ってきたいと思えるよう、地元の素晴らしき田舎の良さを感じてもらいたい。 ・商品づくりなどとても良かったが、大事なものはそれをどう継続していくかだと思うので、一学年で終わらないようにして欲しい。	A
	安全教育・安全管理の推進	◇学校評価「地震や災害等から身を守る安全についての学習や訓練を行うなど安全・安心な学校づくりを進めている」の肯定評価 90%以上 ・県の指標に基づき避難訓練・防災学習を実施する。	◇学校評価「地震や災害等から…」の肯定評価、保護者 100%、生徒 97% ・交通安全、防犯等(不審者、スマホ・SNS、薬物乱用防止)、関係機関と連携して学習を実施した。	A	・引き続き意識を高める取り組みを行う。	・引き続き子どもが安全であるよう防災意識を持って取り組んで欲しい。 ・スマホの防犯は特に自衛が大事なので啓発を。	A
	不登校の予防と支援	◇不登校傾向の生徒の欠席数を前年度より減少をめざすとともに新たな不登校を出さない。 ・校内支援会を実施し情報共有を図るとともに、SC,SSW と連携し個に応じた支援を行う。	◇昨年2名のうち1名は、ほぼ欠席せず登校できた。新たに1名が不登校傾向となったが、3学期になり改善傾向がみられる。 ・教職員間の情報共有はできている。	B	・引き続き本人・家庭への支援を継続する。情報共有により、登校時に全教職員が声かけ等対応できる体制を継続する。	・細やかな支援をお願いしたい。 ・関係機関と連携した支援体制が整えられていると感じる。 ・引き続き教職員間の情報共有ができる体制を継続して欲しい。	B

	働き方改革の推進	<p>◇時間外勤務月 45 時間以内 80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の見直しと意識改革を行う。</li> <li>・校務支援システムを活用し業務の軽減を図る。</li> <li>・定時退校日、学校閉校日を設定する。</li> </ul>	<p>◇1月末までの達成率 70.8%(月平均 30:09)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者連絡、文書配布等さくら連絡網にシフトしている。</li> <li>・定時退校日、学校閉校日等は実施できた。一部大会等との重なりがある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年者及び部活指導の時間が多い、過度の負担にならないように状況確認を行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そもそも解決できる問題なのか？質か・量か・人数か？腹を割った議論が必要ではと思う。</li> <li>・やりがいがあり、無理をしない業務量で心身ともに健康でいられる環境にして欲しい。</li> <li>・部活動の大会となると時間が超えてしまうのは仕方がない。</li> </ul>	B
	不祥事を生じさせない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風通しの良い職場づくり。</li> <li>・定例職員会で共通理解と注意喚起。</li> <li>・計画的に服務研修を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不祥事防止研修や通知文書等に沿った注意喚起を行った。</li> <li>・教職員が互いに相談したり声をかけあったりできる関係性が伺える。</li> <li>・メンター会等で意見交換できた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き風通しの良い職場づくりと注意喚起を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員への信頼回復に努めて欲しい。</li> <li>・ストレスのない働きやすい環境になれば良いと思う。</li> </ul>	A